



コミュニティ形成と日照・通風・プライバシーに配慮した区画割り

石巻市営新渡波西復興住宅

SHIN-WATANOHANISHI PUBLIC HOUSING FOR DISASTER VICTIMS

コミュニティ形成を醸成する
タウンデザインで集い住まうまちづくり
東日本大震災で最大の被害を受け、復興を進める石巻市は、被災者向けに復興住宅4,500戸の整備を推進。そのうち、津波の危険性のない内陸部の新市街地「新渡波西地区」での復興住宅の整備において、提案内容で高い評価を得たパナホーム株式会社を選定された。2,850㎡の敷地に戸建住宅9棟と長屋2棟（2戸1棟、4戸1棟）を建設するにあたり、コミュニティ形成を重視。住民が自由に集まり語らうことができる交流の場として「コミュニティ広場」を中央に配置し、エリア内の主動線としての「メインアプ

ローチ」や住戸間の小径である「コミュニティプロムナード」が設けられている。各住戸では、自然の風と光を取り込む間取り設計に加え、玄関収納を設置するなど収納性を高めて快適性を追求。また、車椅子に対する配慮として、玄関口にスロープを設置し、廊下幅は900mm以上を確保。居室や水廻りの入口には引戸を採用することで、ユニバーサルデザインにも対応している。さらに、コミュニティ広場にマンホールトイレやかまどベンチを備え、長屋に隣接して防災倉庫を設置するなど災害時にも配慮。安心・安全で快適な居住空間と、多世代が集い住まうコミュニティを醸成するまちづくりがなされている。

石巻市営新渡波西復興住宅

所在地 宮城県石巻市新千刈
市営住宅の供給 宮城県石巻市
事業主 パナホーム株式会社
竣工 2015年8月
構造形式 木造軸組工法



花壇と日時計、地元産の井内石(いなないし)を使ったベンチを備えた「コミュニティ広場」



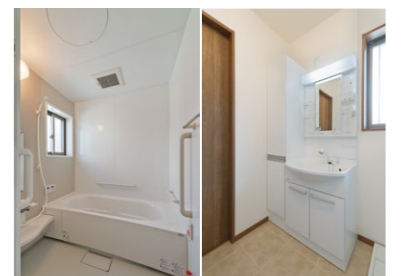
住戸間に設置された「コミュニティプロムナード」



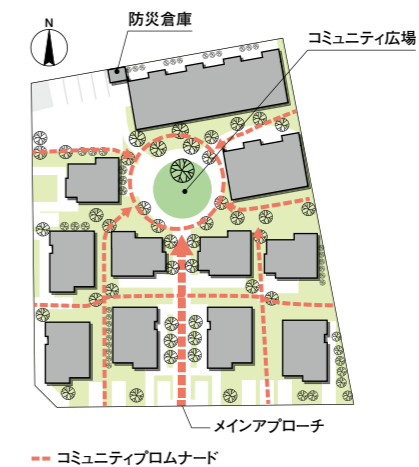
車椅子に配慮した玄関口のスロープ



明るく、開放感のあるリビング



ゆとりあるスペースと引戸で車椅子に配慮したバスルーム(左)、洗面室(右)



主な設備

- 収納用建具、内装ドア、床材
- 天井埋込型換気扇
- システムバス
- 洗面ドレッシング、床下収納
- 温水洗浄便座
- 照明器具
- 分電盤、配線器具、すっきりボール
- セキュリティインターホン、感知器、非常押し釦
- 屋根、外壁、雨とい